


## 6 ウォータースポーツ及び海洋教育の導入について

海洋基本法に記載されている「学校教育及び社会教育における海洋に関する教育の推進」という国の方針を実現するため、『九州UMIアカデミー』を2011年からスタートしました。複数日間にわたる実技と座学を取り入れた親子や学校単位で参加できる事業構成内容となっています。

現状の学習指導要領では、ウォータースポーツ及び海洋教育を包括的に扱う教科・単元が少ない中、本事業では、ウォータースポーツのみならず、海の大切さ、環境問題、魚食文化、海事産業、海の安全、気象や津波等について専門分野の講師から楽しく学べる総合的なプログラム構成となっています。

「UMIアカデミー」のような海に関する総合的なプログラムを通じて、ウォータースポーツおよび海にまつわる知識や技術を学び、海洋国家であるわが国の全ての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会の創設に向けて、プログラム導入の方法を提案いたします。

### ■ウォータースポーツ及び海洋教育の実施に向けたプランニング

		実施/検討事項	備考
12月	【第1ステップ】 —検討—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施体制の検討</li> <li>・実施内容の検討</li> <li>・組織作り(実行委員会の設置)</li> <li>・事務局の設置</li> <li>・資金調達の検討</li> <li>・実施場所の検討・決定</li> </ul>	定期的に行う実行委員会を開催する
1月			
2月	【第2ステップ】 —プランニング—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施プログラムの検討・決定 ※対象者の年齢に適したプログラムを選択</li> <li>・事業概要の検討・作成</li> <li>・財源の算出(参加料・助成金・協賛金)</li> <li>・協力者へのアプローチ・依頼</li> <li>・後援団体へのアプローチ・依頼</li> <li>・協賛企業へのアプローチ・交渉</li> <li>・ボランティア獲得への検討</li> </ul>	
3月			
4月	【第3ステップ】 —カウントダウン—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動(メディア関係者)</li> <li>・募集チラシの作成・配布</li> <li>・各プログラム配布資料の作成・確認</li> <li>・参加者募集</li> <li>・関係者への説明会</li> <li>・ボランティアへの説明会</li> </ul>	
5月			
6月	【第4ステップ】 前半・後半 —実施および検証—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加人数の把握</li> <li>・運営スタッフの確認(講師、看護師等)</li> <li>・安全体制の最終確認</li> <li>・参加者・保護者へのアンケート作成</li> </ul>	
7月		UMIアカデミーの開始 《7月上旬～9月下旬》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者・保護者へのオリエンテーション</li> <li>・参加者・保護者への事前アンケート</li> </ul>	
8月		<div style="background-color: #cccccc; padding: 5px; display: inline-block;">各種プログラムの実施</div>	
9月			
9月		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各プログラム実施後に反省会を実施</li> </ul>	
10月	【第5ステップ】 —検証・振り返り—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返り(反省会)</li> <li>・参加者・保護者へのアンケート</li> <li>・報告書の作成</li> <li>・後援・協力団体への報告書提出</li> <li>・協賛企業等への報告書提出</li> <li>・次年度に向けて協賛企業への交渉</li> <li>・次年度に向けての検討会議</li> </ul>	
11月			

## ❖ 6-1 実施までの第1ステップ(検討)12月～1月

### 1) 実施体制の検討

UMIアカデミーは、ウォータースポーツおよび海洋教育を包括的に実施する事業です。そのためには、行政の全面的な理解と協力が成功への鍵となります。関係各所（地方運輸局、市町村、教育委員会、自治会等）と民間団体・組織(スポーツ関連団体・組織、NPO団体、マリナー関係者、海の駅、漁協組合等)で協力体制を構築し、実施プログラムについて入念に検討する必要があります。

### 2) 企画・運営の組織作り（実行委員会の設置）

UMIアカデミーを実施するためには、行政と複数の民間団体等が一体となって取り組む組織で構成する実行委員会を設置することが重要となります。

※実行委員会の構成は、ウォータースポーツや海洋教育関連団体に限定せず、スポーツ関係者、地域自治会、地域連絡協議会などで構成することで、幅広い分野からの知見を集結することが期待できます。

#### 【実行委員会の構成および役割について(例)】

＃	所属組織	主な役割
1	実施場所の組織 例：〇〇マリナー	場所・機材・スタッフの提供
2	〇〇スポーツ実施種目団体	機材・講師・スタッフの提供
3	〇〇地域海の駅	場所・機材・スタッフの提供
4	〇〇大学（地域の大学）	ボランティアの獲得／学術的に事業の調査、検証
5	〇〇地方運輸局（船舶産業課）	行政関係者との交渉、会議室等の手配
6	〇〇地域自治会	地域との橋渡し、参加者募集に伴う広報活動
7	〇〇地域総合型スポーツクラブ	機材・スタッフ・広報活動
8	〇〇支部 日本海洋レジャー安全協会	キッズ船検、周知・広報

### 3) 実施内容の検討

UMIアカデミーは、小中学生および住民の日常生活にウォータースポーツおよび海洋教育を定期的かつ継続的に実施することを目指しています。また、わが国の海事思想の普及と認識の向上を図ることの目的を明確にすることを関係者の共通認識とします。

### 4) 事務局の設置

組織作りの概要が固まったら、運営の核となる事務局を設置します。その事務局が事業を実施する拠点となり、関係者が集まりやすい場所を選定し、責任者を任命します。

### 5) 資金調達については実行に伴う予算を算出し、資金調達方法について検討します。

例：参加料収入・協賛金・助成金・補助金

### 6) 実施場所の検討・決定

実施場所は、ウォータースポーツを実施するゲレンデを考慮するとともに、参加者の目線に立って交通手段や講座等を行える会議室等が利用できる既存施設を選定することが大切です。また、会場は、1ヶ所にとどまらずに講座の実施に伴う協力団体等の事務所・会議室の活用も検討しましょう。なお、実施場所の決定については、トイレ、更衣室、シャワー等が配備された施設を選定することが参加者・保護者にとっても、安心感を与えることにつながります。

## ⊗ 6-2 実施までの第2ステップ（プランニング）2月～3月

### 1) UMIアカデミー実施内容のプランニング（実技と講座を盛り込んだプログラム）

#### ◆地域に合わせたプログラム内容の検討・決定

参加者に対して多彩なプログラムや選択枠を用意します。事業をより効果的に実施するには、参加者に対して魅力的なコンテンツでプログラムを構成することが必要になります。海を題材とした基礎知識や、気象といった実技と関連した内容を学び、実際に体験・体感することで、興味を引き出し、理解を深めてもらうことを目的とします。また、海洋生物の観察やビーチコーミングなど実際に目にし、手で触れることのできる教材を使って講義をすることで、教科書や本から学ぶことのできる知識との融合を図ることが出来、参加者の日常生活の一部となることが期待されます。

#### 【実技プログラム一覧（例）】

<p>1. カヌー（カヤック）</p>  <p>穏やかな海面でプラスチック製のシーカヤックを実際に自らが操船・体験してもらいます。</p>	<p>2. サーフィン（ボディボード）</p>  <p>ボードに乗って波の上を滑走するスポーツ。ボディボードはソフトなボードに腹ばいに乗るため、比較的安全で手軽に楽しむことができます。</p>	<p>3. 水泳（オープンウォータースイミング）</p>  <p>プールで泳ぐのとは異なり、自然の海や湖、川などで泳ぐため、体力や海流や水流などを意識しなければならないので、知識やテクニックを必要とします。</p>
<p>4. スノーケリング</p>  <p>マスクとスノーケルを着けて、泳いだり潜ったりしながら魚や海の中の様子を観察します。</p>	<p>5. ビーチコーミング</p>  <p>流れ着いたゴミなどを通して自然環境について考え、貝殻、流木などを使って工作などを行います。</p>	<p>6. ビーチバレー</p>  <p>砂浜にネットを張ったコートに裸足の二人一組のチームで対戦するバレーボールから派生した球技。オリンピックの正式種目です。</p>
<p>7. ビーチサッカー</p>  <p>砂浜で行うサッカーで、裸足で1チーム5人で行われます。独自のルールも多く、特に選手の交代回数に制限がないことが特徴です。</p>	<p>8. ボート（クルージング）</p>  <p>モーターボートなどに乗船し、沖合から海岸線を観察し、普段見慣れているはずの自分たちが住む街を角度を変えて見ることで再認識しながら、地理的条件や歴史、環境問題などに目を向けることができます。</p>	<p>9. ヨット（デインギー）</p>  <p>風の力を帆（セール）とらえて、風の力だけで走ることで、普段あまり意識することのない自然の力を学びます。</p>

<p>10. 釣り</p>  <p>磯や防波堤で釣りを楽しめます。自然が相手なので、初めての体験がたくさんあるはず。</p>	<p>11. ライフセービング</p>  <p>水辺の事故を未然に防ぎ、命を守ることを一番に考えた活動です。ライフセービングを通じて、海の安全を学びます。</p>	<p>12. ウィンドサーフィン</p>  <p>ボードとセイルが接続された道具を使用し、風を受けたセイルに発生する揚力と波の斜面を滑り降りる推進力を主な動力として水面を滑走するスポーツです。</p>
<p>13. スタンドアップパドルボード</p>  <p>大きなサーフボードの上に立ち、パドル(オール)を使って漕ぐスポーツ。波や風の無いフラットな海水面でも楽しむことができます。</p>	<p>地域特有の種目</p> <p>例：カッター ペーロン ドラゴンボート</p>	

【主な実施種目として適した年齢層】

【△：適していない ○：適している ◎：大変適している】

種目	学年				備考(実施条件)
	低学年	高学年	中学生	高校生	
カヤック	△	○	◎	◎	<p>各種マリンスポーツに関しては、実施場所のコンディションによって種目を選択してください。</p> <p>また、参加者年齢層によって使用する機材やスタッフ人数など考慮して柔軟に対応することが大切です。</p> <p>詳しくは、種目協力組織・団体と相談して決定してください。</p> <p>適した期間：5月中旬～10月中旬</p>
サーフィン(ボディボード)	△	○	○	○	
水泳	○	○	○	○	
スノーケリング	△	○	○	○	
ビーチハンドボール	○	○	○	○	
ビーチコーミング	◎	◎	◎	◎	
ビーチバレー	○	○	○	○	
ビーチサッカー	○	○	○	○	
ボート(クルーズ)	○	○	○	○	
ヨット	△	△	○	○	
釣り	○	○	○	○	
ライフセービング	○	○	○	○	
ウィンドサーフィン	△	△	◎	◎	
スタンドアップパドル	△	△	◎	◎	

【講習・演習種目（例）】

<p><b>1. 海と食材</b></p>  <p>実際に漁業関係者と一緒に鮮魚の調理方法や包丁の使い方を学びます。また、調理した食材は参加者で食します。</p>	<p><b>2. 海の生物</b></p>  <p>海の生き物と生態を専門家から学び、その地域の海洋生物や危険な生物などについて学びます。</p>	<p><b>3. 星と航海術</b></p>  <p>月の動きや季節の星座を学びます。また、星の見える位置から自らの場所を把握することも学びます。</p>
<p><b>4. 海と気象</b></p>  <p>野外活動時に必要な気象状況に関する知識を専門家から学び、悪天候時など危険回避能力を高めます。</p>	<p><b>5. 海と安全</b></p>  <p>海についての安全やルールを学びます。また、実際に日本を守る海上保安庁の巡視艇に乗船し、その仕事についても学びます。</p>	<p><b>6. 海と船</b></p>  <p>ボート、ヨット、プレジャーボートはもとより、小舟から大型船、商船、客船、帆船などの歴史や文化を学びます。</p>
<p><b>7. 海の仕事</b></p>  <p>海に関する様々な仕事について学びます。貨物船の船長、造船業、海上保安官、漁業など。</p>	<p><b>8. 救急救命 (AED)</b></p>  <p>実際のスポーツを実施する際に起こりやすい怪我、疾病の例を紹介しながら、応急手当や心肺蘇生、AEDの使用方法について学びます。</p>	<p><b>9. マナープログラム</b></p>  <p>スポーツや文化活動を通じて、日本の伝統的な礼儀作法を学びます。</p>
<p><b>10. ロープワーク</b></p>  <p>ロープを使って、様々な結び方を学びます。</p>		

【主な座学種目として適した年齢層】

【△：適していない ○：適している ◎：大変適している】

種 目	学年			備考(実施条件)
	低学年	高学年	中学生	
海と食材	○	◎	◎	各種プログラムは、参加者に応じて講義・演習内容を検討することが大切です。特に低学年を対象として実施する場合は、講師との入念な打合せと資料づくりが重要になります。詳しくは、種目協力組織・団体と相談して決定してください。  適した期間：1年間
海の生物	◎	◎	◎	
星と航海	○	◎	◎	
海と気象	◎	◎	◎	
海と安全	○	◎	◎	
海と船	○	○	○	
海の仕事	△	○	◎	
救急救命	△	◎	◎	
海と環境	◎	◎	◎	
マナープログラム	◎	◎	◎	
ロープワーク	△	◎	◎	

◆保護者も参加できるプログラムを検討(保護者限定プログラム)

例：魚料理講座、救急救命講座、健康管理講座、子どもとのコミュニケーション講座、包丁磨ぎ方講座、食育講座

◆その他地域活性化に関連するプログラムを検討

例：海と伝統芸能(祭り等)を取り入れたプログラム、特産物に焦点をあてたプログラム、近隣の地域等を巻き込んだプログラム(交流事業)

2) 事業概要の検討・作成

◆事業趣旨、開催日時、実施場所、参加料、実施種目、参加条件等を明確に示した事業概要を作成してください。また、後援、協力、協賛等についても表記しましょう。

3) 財源の確保

◆受益者負担が主な財源

参加料の設定については、九州UMIアカデミーや地域で実施している他のプログラムの参加料を参考にした上で設定してください。

◆協賛企業等の獲得

事業を実施する上で資金・物品を調達することで充実したプログラムとなります。協賛依頼(現金・物品)については、単に依頼をするのではなく、企業側の事業趣旨、メリット、社会貢献等への取り組みについて事前に把握した上で交渉する必要があります。また、事業実施期間中にも進捗報告を定期的に行い、継続的に事業を実施するための基盤を協賛企業等と築きましょう。

◆補助金や助成金

行政、自治体等の補助金、助成金を活用することも検討しましょう。

【協賛等依頼先例】

#	宛先	依頼内容	企業側のメリット
1	〇〇飲料メーカー	・協賛金/サンプリング	・自販機の設置/事業実施時の物販 ・社会貢献
2	〇〇自動車メーカー	・協賛金	・社会貢献/企業イメージの向上
3	〇〇マリン・造船関連企業 等	・機材/協賛金	・社会貢献/販売促進
4	〇〇ショッピングセンター	・割引券等/協賛金	・集客、販売促進/社会貢献
5	〇〇スポーツメーカー	・ウェア/用具/協賛金	・企業イメージの向上/社会貢献
6	社会貢献に積極的会、地元企業等	・協賛金/集客	・企業イメージの向上/社会貢献

◆事業受託の検討

地域教育機関や総合型スポーツクラブと連携を図り、地域小中学校の野外活動授業、総合学習授業や総合型スポーツクラブの事業を本事業と融合し、受託することも検討してみましょう。

4) 協力団体、地域関係者の協力

事業を実施する地域関係者を巻き込むことが、地域内の人間関係の構築、問題解決ならびに地域活性化にもつながることからも積極的に協力を仰ぎましょう。

【協力団体および役割(例)】

#	所属組織	主な役割
1	マスコミ関係者(新聞・TV)	複数にわたる取材、新聞・TVなどへの露出
2	〇〇スポーツクラブ	観戦チケット等の提供
3	地元商工会	周知、
4	地元青年会議所	周知、ボランティア
5	〇〇漁業協同組合	鮮魚の提供・海上プログラムの警戒艇

5) 後援団体へのアプローチ・依頼

後援依頼については、実施概要、予算書などの書類が多数必要になります。事前に必要書類等の確認を行うとともに時間に余裕を持って行動しましょう。特に行政機関は、認可を得るまでの時間を要するので注意しましょう。

【後援名義依頼先(例)】

#	所属組織	主な役割
1	〇〇県	後援名義については、左記の組織・団体に依頼し、協力を仰ぐことで、事業の信憑性を確保されることとなります。また、教育機関等への幅広い分野に対する広報活動も円滑に行われることが可能となります。積極的に先方に出向き、事業趣旨を理解してもらい、良好な関係を構築することが大切です。
2	〇〇市	
3	〇〇市教育委員会	
4	国土交通省 〇〇運輸局	
5	〇〇大学 (地域の大学)	
6	〇〇地域自治会	
7	〇〇体育協会、レクリエーション協会	
8	〇〇地域総合型スポーツクラブ	

6) 運営ボランティアの活用について検討

◆事業を円滑、かつ成功に導くためには、事業に関わるスポーツボランティアの協力が必要不可欠となります。大学などの教育機関と接点を持ち、ボランティア活動に参加した学生に対して単位が取得できるよう大学側と交渉しましょう。

例：近隣の大学等の部活(ヨット部、水泳部、ライフセービング部、ボート部等)。

## ⑥ 6-3 実施までの第3ステップ(カウントダウン)4月～5月

### 1) 広報活動

事業を成功に導く鍵は、マスコミを通じて広く地域住民や社会に対して、事業趣旨・内容を周知することが大切になります。また、広く周知することで、事業の拡大のみならず、定期的かつ継続的に事業実施に伴うための資金獲得（協賛金、物品協賛等）にもつながることが期待されます。

### 2) 募集チラシの作成・配布（地域自治会・教育機関・関係者への募集開始）

地域の自治会、子ども会、小中高学校へ出向き、事業趣旨・内容を理解してもらい参加者を募り、地域一体での実施を目指しましょう。

### 3) 各プログラムの配布資料作成・確認

参加者・保護者が期間中に使用するプログラム概要の作成。作成に伴い、実行委員会、協力団体、講師などの関係者に必ず確認を行いましょ。

#### 【主なコンテンツ】

- ◆種目別実施プログラム日程
- ◆タイムスケジュール
- ◆各種目説明
- ◆講師紹介
- ◆実施場所地図
- ◆交通手段(アクセスマップ)
- ◆その他

※別添九州UMIアカデミーノート参照

### 4) 関係者への実施概要説明会の実施

協力団体および講師に対して、事業概要、日程、役割等について説明会を実施しましょう。

### 5) 運営ボランティア説明会の実施

ボランティアに対して、趣旨、事業概要、日程、役割等について説明会を実施しましょう。また、事前にボランティアに対して条件提示も明確に行いましょう。

例：事前のボランティア説明会への出席

T-シャツの配布

弁当・飲み物の有無

交通費支給の有無

大学へのボランティア証の発行など



## ⑥ 6-4 実施 第4ステップ(実施)6月～9月

---

### 【6月中】

- 1) 参加人数の最終確認
- 2) 運営スタッフの最終確認
  - ◆運営スタッフ
  - ◆講師
  - ◆看護師
  - ◆ボランティア
- 3) 安全体制の最終確認
  - ◆緊急体制連絡網の作成
  - ◆最寄の病院場所の確認・連絡一覧作成
  - ◆最寄の警察・消防への連絡体制の構築
  - ◆最寄の海上保安庁への連絡体制の構築
  - ◆実施場所の危険物確認
  - ◆当日の看護師の手配および救急箱の準備
  - ◆気象予報士への連絡・確認(当日の気象状況の確認依頼)
- 4) 参加者・保護者へのアンケート作成

アンケート調査は、事前と事後に実施しましょう。アンケート結果は、参加者からの貴重な意見として受け止め、改善に努めるとともに次年度に向けての課題にしましょう。また、アンケート調査内容は、主に選択式で作成し、参加者が簡単に答えられる内容で作成しましょう。

### 【7月上旬～9月下旬】 ※実施場所によって実施期間は異なります。

- 1) オリエンテーションの実施

参加者・保護者に対して、プログラム内容についてオリエンテーションを開催し、趣旨、事業概要等について説明会(オリエンテーション)を実施しましょう。
- 2) 事業実施前のアンケート調査の実施
- 3) 事業の実施
- 4) 反省会の実施

各種プログラムの実施後には、運営スタッフで反省会の開催を必須とし、当日の問題・課題点を抽出し、改善に努めましょう。

## ⊗ 6－5 実施後 第5ステップ(検証・振り返り)10月～11月

---

- 1) 事業の振り返り
- 2) 参加者へのお礼およびアンケートの実施・集計・分析
- 3) 報告書の作成
- 4) 関係各所への報告
  - ◆後援団体
  - ◆協力団体
  - ◆協賛企業 など
- 5) 次年度に向けての検討会議の開催（実行委員会）
- 6) 協賛企業・協力団体等へのアプローチ（継続・新規）

## ⊗ 6 - 6 留意事項

---

### ◆受益者負担を基本資金とする

基本的に実施経費については、受益者負担で実施できる事業内容とします。助成金・補助金を目処に事業予算を算出すると、安定的な事業形態にならないので注意しましょう。

### ◆定期的・継続的に実施可能なプログラム

中・長期計画を策定し、一過性の事業にならないように注意しましょう。

### ◆地域教育機関との連携を図る

地域教育機関等のニーズを把握し、事業内容が主催者側の一方的な考えで実施しないように注意しましょう。

### ◆行政機関との連携を図る

行政との連携を図ることで、各種許認可事項が円滑に行われるので、企業立案段階から相談・報告を怠らないようにしましょう。

### ◆魅力あるプログラムの実施

プログラムについては、子どもだけではなく、保護者も参加し、楽しみながら学べる内容で検討しましょう。

### ◆反省会等の実施

各プログラム終了後には、スタッフ、講師との反省会を実施し、課題・問題点を抽出して改善に向けた対策を検討しましょう。

### ◆実行委員会の開催

定期的の実行委員会を開催し、現状の問題・課題等を把握し、改善に努めましょう。

### ◆悪天候・自然災害時の事業（プログラム）中止に伴う、参加者への連絡網を事前に参加者の了解を得て作成しましょう。

### ◆参加者の個人情報の取り扱いについては、十分注意しましょう。

## ⊗ 6－7 事業概要（例）

---

主催者：〇〇〇実行委員会

構成団体：〇〇マリンスポーツ協会、〇〇地方運輸局、〇〇体育協会、〇〇地域自治会、  
〇〇マリーナ、〇〇漁業協同組合、〇〇スポーツ少年団、〇〇海浜組合、〇  
〇総合型スポーツクラブ など

協力：〇〇県、〇〇市、〇〇市教育委員会、国土交通省 〇〇運輸局実施種目団体、  
地域まちづくり協議会、〇〇体育協会

後援：〇〇県、〇〇市、〇〇教育委員会、国土交通省 〇〇運輸局 など

協賛：〇〇商店街組合、〇〇スポーツ株、〇〇飲料水株 など

実施内容：学習・講座種目（5～10種目）

体験種目（5～10種目）

実施場所：地域マリーナ、休港、〇〇総合型スポーツクラブ など

実施期間：〇〇〇〇年5月～〇〇〇〇年2月（10ヶ月程度）

参加料：〇〇〇〇〇円（〇〇〇〇料含む）

条件：〇〇才以上

配布物：

その他：保護者用プログラムの紹介

保険について

個人情報の取り扱いについて